令和７年度

決　算　報　告　書

静岡県田方郡函南町

令和７年度函南町一般会計、各特別会計の決算の概要について次のとおり報告いたします。

なお、詳細については、別添の令和７年度主要な施策の成果と予算執行状況報告書によります。

令和８年９月17日

函南町長　仁科　喜世志

令和７年度函南町一般会計歳入歳出決算について

決算の概要

⑴　歳　入

令和７年度の歳入総額は、前年度と比較して、898,524,967円（5.8％）増の16,376,888,125円 となりました。

予算額に対する収入率は、前年度と比較して 1.5ポイント減の 98.9％となりました。

歳入の根幹となる町税は、前年度と比較して収納率が0.1ポイント減の 94.6％となり、収入済額は 2.0％増の5,289,568,830円となりました。

自主財源は、寄附金、諸収入が減額したものの、町税、繰入金、繰越金、財産収入等の増額により、前年度と比較して 4.0％増の 7,502,299,999円となり、歳入に占める割合は、 0.9ポイント減の 45.7％となりました。

依存財源は、地方特例交付金、株式等譲渡所得割交付金等が減額したものの、国庫支出金、地方交付税、町債、地方消費税交付金等の増額により、前年度と比較して 7.4％増の8,874,588,126円となり、歳入に占める割合は、0.9ポイント増の 54.3％となりました。

⑵　歳　出

令和７年度の歳出総額は、前年度と比較して、944,764,931円（6.4％）増の15,800,801,343円 となりました。

増額の主な要因として、標準化システム移行業務委託料の皆増、西小学校長寿命化改修工事の増額等により、歳出総額が増額となりました。

予算額に対する執行率は、前年度と比較して 1.0ポイント減の 95.4％となりました。

令和７年度は、第六次函南町総合計画の後期基本計画の４年目にあたり、物価高騰をはじめとする財政運営上の課題の長期化・恒常化等により、依然として先行きを見通すことが困難な状況が続く中、町の将来都市像である「環境・健康・交流都市函南」の実現に向け、基本理念に定める６つの柱「環境・防災」、「社会基盤」、「健康・福祉」、「教育」、「産業」、「交流・にぎわい」の各分野において様々な施策を展開し、町民の皆様とともに明るい未来に向けて歩んでいけるまちづくりに取り組んでまいりましたので、主要施策と併せて報告いたします。

まず、基本目標１「快適に安心して暮らせる環境づくり」に向けた主な取組みとして

「エネルギーの有効活用」では、役場庁舎、西部コミュニティセンター、仏の里美術館等の照明ＬＥＤ化工事により、公共施設の省エネルギー化を推進するとともに、公共施設等における再生エネルギー設備の導入に向けた調査検討を実施し、再生エネルギーの利用促進を図りました。

また、「循環型社会の形成」では、経年劣化等により老朽化が進んでいるごみ焼却場・リサイクルプラザについて、改修・更新計画に基づき計画的に改修工事等を実施することで、施設の延命化を図るとともに、災害協定に基づき、平時から可燃ごみの処理の一部を外部委託することにより、有事の際の処理不能事態や災害等の発生に備えた体制を構築しました。

さらに、「消防・救急体制の充実」では、耐震強度が不足する消防団第２分団詰所の建替えを行い、消防団詰所の耐震化の推進を図りました。

次に、基本目標２「コンパクトで効率的な都市づくり」に向けた主な取組みとして

「道路交通網の整備」では、町道の改良工事、舗装工事及び橋梁の補修工事を行い、利便性や歩行者の安全性を確保するとともに、橋梁の点検業務及び道路パトロール業務により、町道の適切な維持管理に努めました。

また、「地域公共交通網の形成」では、持続可能な公共交通網の確保・維持のため、市街地南部における拠点循環コミュニティバスや、大場駅と函南駅の交流拠点間を結ぶデマンドタクシーの実証運行を実施し、町の公共交通ネットワークの充実、町民の移動手段の確保に努めました。

さらに、「住宅環境の整備」では、函南町営住宅長寿命化計画に基づき、上沢住宅の外壁等を改修することで、施設の長期的な保全や住環境の向上に努めました。

次に、基本目標３「誰もが活き活きと暮らせる健康づくり」に向けた主な取組みとして

「母子保健事業の充実」では、妊産婦、子ども及び子育て家庭の不安や困りごとなどの悩みに対応するため、母子保健及び児童福祉の機能を兼ね備えたこども家庭センターを設置するとともに、早期に必要な支援へ繋げるため、１か月児健診及び５歳児健診を実施し、切れ目のない相談、支援体制の充実を図りました。

また、「地域福祉の推進」では、重層的支援体制整備事業により、従来の支援体制では対応が困難であった地域住民が抱える複雑化・複合化した課題に対応することができる包

括的な相談支援を実施しました。

次に、基本目標４「生涯にわたる学びを支える教育・文化づくり」に向けた主な取組みとして

「幼児教育の充実」では、５歳児から小学校入学への接続をスムーズに繋げるよう幼児教育センターを運営し、質の高い幼児教育の提供、保幼こ小中の連携を図りました。

また、「教育環境の整備」では、西小学校校舎の延命化を目的として長寿命化改修工事を実施するとともに、多様な学びに対応できるよう施設内の改修を行い、安全・安心、多様な学びに対応できる教育環境の整備に努めました。

さらに、「生涯学習の推進」では、文化センターにおいて、外壁の改修工事や現在利用を停止している大ホールの天井耐震改修工事実施設計業務を実施し、生涯学習活動推進のための拠点施設の整備充実に努めました。

次に、基本目標５「活力とゆとりを生み出す産業づくり」に向けた主な取組みとして

「農林業基盤の整備」では、豪雨耐性が不足し、老朽化が進む牧場池の改修工事を実施することで、安定した用水供給と地域住民の安全確保を図るとともに、町内６箇所（新田、畑毛、畑毛川島、落合、稲妻、塚本）の排水機場等で、ポンプ、除塵機等の正常な運転操作ができるよう、電気設備やポンプの点検整備を行い、湛水防除施設等の適正な管理に努めました。

また、「商業振興」では、函南ブランド認定品を紹介するパンフレット等により町の特産品の認知度向上に努めたほか、町職員で構成されるふるさと納税推進のための庁内プロジェクトチームにより、ふるさと納税返礼品事業者の発掘や返礼品の充実を図ることで、町内事業者の販路拡大を支援しました。

次に、基本目標６「魅力とにぎわいのある交流づくり」に向けた主な取組みとして

「情報化の推進」では、人事給与システムの更新に併せ、勤怠管理システムを導入し、紙媒体で管理していた出退勤、休暇、時間外勤務等をデジタル管理することで、ペーパーレス化や事務処理の効率化を図るとともに、国の定める仕様書に則った標準準拠システムへの移行作業や、国が管理するガバメントクラウドへの接続を行い、基幹系システムの標準化・共通化の整備に努めました。

また、「移住・定住の促進」では、東京圏から函南町へ移住し、就業、起業等した方に

対する補助金の支給を行い、定住のサポート体制を構築し、移住・定住の推進に努めました。

さらに、「効果的・効率的な行財政運営の推進」では、第六次函南町総合計画が令和８年度に最終年を迎えるため、これまでの取組みを踏まえ、これから町が目指していく将来像やそれを実現するための施策を定めた次期総合計画の策定作業を進めるとともに、庁舎竣工から20年が経過し、老朽化した設備について、予防保全型の更新・改修を実施し、施設の安全性や機能の確保に努めました。

次に、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した事業として、住民税非課税世帯への物価高騰対策給付金、令和６年度に実施した定額減税補足給付金（調整給付）の支給額が不足する方等への定額減税補足給付金（不足額給付）、町内在住者へのかんなみプレミアム商品券2025発行事業及びかんなみ暮らし応援券発行事業、町内の保育園、認定こども園、幼稚園、小中学校に対する給食食材費物価高騰対策補填事業、農業者への農業生産資材価格高騰対策支援事業を実施し、物価高騰に直面する生活者及び事業者への支援に取り組みました。

この他の各費目別の事業については、主要な施策の成果と予算執行状況報告書に記載したとおりであります。

次に、主な目的別経費の決算状況は、前年度と比較して商工費が 24.8%増の 321,546千円となり、農林水産業費が 4.8%減の 236,104千円となりました。構成比では、前年度と比較して民生費が 0.2ポイント増の 36.1%で全体に占める割合が最も多く、次いで、教育費が 0.4ポイント増の 18.2%、総務費が 0.4ポイント減の 14.9%、衛生費が 0.3ポイント増の 8.4%の順となりました。

次に、主な性質別経費の決算状況のうち、経常的経費は前年度と比較して 6.5%増の11,665,656千円、投資的経費は 12.7%増の2,419,669千円となりました。構成比では前年度と比較して、経常的経費は 0.1ポイント増の 73.8%、投資的経費は 0.8ポイント増の 15.3%であり、その他経費は 0.9ポイント減の 10.9%となりました。

経常的経費のうち物件費は、基幹系システム標準化・共通化に伴う標準化システム移行業務委託料の皆増等により、前年度と比較して 12.1%増の 2,754,623千円となりました。

扶助費は、児童手当（高校生分）が年間を通して支給されたことに伴う増額等により、前年度と比較して 8.9%増の 3,196,569千円となりました。

人件費は、人事院勧告に基づく給与改定に伴う増額等により、前年度と比較して7.8%増の 2,656,891千円となりました。

投資的経費における普通建設事業費のうち補助事業は、西小学校長寿命化改修工事（補助分）の増額等により、前年度と比較して 24.4%増の 794,596千円、単独事業は、函南町体育館土地購入費の皆増やごみ焼却場改修工事の増額等により、10.9%増の1,614,416千円となりました。

その他経費のうち、積立金は、財政調整基金新規積立の減額により、15.6%減の385,846千円となりました。

⑶　財政構造

令和７年度の歳入歳出差引額は、576,087千円となり、これから翌年度へ繰越すべき財源 29,607千円を差し引いた実質収支は、546,480千円となりました。

さらに、本年度の実質収支から前年度の実質収支 612,945千円を差し引いた単年度収支は66,465千円の赤字、また、単年度収支に、財政調整基金への積立金 380,845千円を加え、同基金からの取崩額 641,107千円を差し引いた実質単年度収支は 326,727千円の赤字となりました。

経常収支比率は、歳出の人件費、扶助費等の増額に加え、歳入の法人町民税が減額したこと等により、前年度と比較して 2.0ポイント増の 95.4％となりました。

令和７年度函南町土地取得特別会計歳入歳出決算について

決算の概要

令和７年度函南町土地取得特別会計の決算額は、歳入歳出ともに前年度と同額の0円となりました。

予算額に対して、歳入の収入率、歳出の執行率ともに 0%となりました。

令和７年度函南町国民健康保険特別会計歳入歳出決算について

決算の概要

令和７年度函南町国民健康保険特別会計の決算額は、歳入が前年度比 0.1%減の3,822,629,892円、歳出が前年度比 0.8%減の3,762,266,366円となり、歳入歳出差引額は60,363,526円となりました。

予算額に対して、歳入は収入率 91.8%で340,921,108円の減額となり、歳出は執行率90.4%で 401,284,634円の不用額となりました。

歳入のうち、国民健康保険税は前年度比 0.6%増の 763,972,746円となり、県支出金は前年度比0.9%減の 2,680,697,727円となりました。また歳出のうち、保険給付費は前年度比0.8%減の 2,623,308,799円となりました。

令和７年度函南町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算について

決算の概要

令和７年度函南町後期高齢者医療特別会計の決算額は、歳入が前年度比 7.1%増の719,204,388円、歳出が前年度比 6.8%増の 714,757,888円となり、歳入歳出差引額は4,446,500円となりました。

予算額に対して、歳入は収入率100.6%で4,377,388円の増額となり、歳出は執行率99.9%で 69,112円の不用額となりました。

歳入のうち、後期高齢者医療保険料は前年度比 8.4%増の 600,239,700円となりました。また歳出のうち、静岡県後期高齢者医療広域連合への納付金は前年度比 6.8%増の714,271,088円となりました。

令和７年度函南町介護保険特別会計歳入歳出決算について

決算の概要

令和７年度介護保険特別会計の決算額は、歳入が前年度比4.1％増の3,562,999,528円、歳出が前年度比5.1％増の3,497,789,594円となり、歳入歳出差引額は、65,209,934円となりました。

予算額に対して、歳入は、収入率97.9％で77,002,472円の減額となり、歳出は執行率96.09％で142,212,406円の不用額となりました。

歳入のうち、介護保険料は前年度比1.0％増の772,845,913円となりました。また歳出のうち保険給付費は前年度比4.7％増の3,195,930,785円となりました。

令和７年度函南町平井財産区特別会計歳入歳出決算について

決算の概要

令和７年度函南町平井財産区特別会計の決算額は、歳入歳出ともに前年度比304,247円増の1,455,517円となりました。

予算額に対して、歳入は 1,483円の減額、歳出は 1,483円の不用額で、収入率・執行率ともに 99.9％となりました。

歳入のうち、基金繰入金は前年度と同額の 1,104,200円となりました。また歳出のうち、一般会計への繰出金は前年度と同額の 1,000,000円となりました。

令和７年度函南町上沢財産区特別会計歳入歳出決算について

決算の概要

令和７年度函南町上沢財産区特別会計の決算額は、歳入歳出ともに前年度比30,641円増の 30,830円となりました。

予算額に対して、歳入は 170円の減額、歳出は 170円の不用額で、収入率・執行率ともに 99.5％となりました。

歳入は、財産運用収入が前年度比30,641円増の 30,830円、歳出は、基金積立金が前年度比30,641円増の 30,830円となりました。

令和７年度函南町下水道事業特別会計決算について

決算額

収益的収入及び支出

収入 991,416,939円　支出 1,003,507,830円　差引　△12,090,891円

資本的収入及び支出

収入 288,627,600円　支出 553,263,174円　差引　△264,635,574円

決算の概要

令和７年度の損益計算書により、総収益は、前年度比 3.7％増の 942,666,509円、総費用は、前年度比 3.6％増の 970,925,261円で、当年度純損失 28,258,752円となりました。

収益では、下水道使用料が 302,684,770円で総収益の 32.1％、一般会計繰入金である他会計負担金は 394,433,000円で 41.8％、その他の収益が 245,548,739円で 26.1％の構成となりました。

費用では、流域下水道費が 270,640,000円で総費用の 27.9％、総係費が 80,416,784円で 8.3％、減価償却費が 500,081,306円で 51.5％、支払利息及び企業債取扱諸費が 48,063,811円で 4.9％、その他の費用が 71,723,360円で 7.4％の構成となりました。

資本的支出は、未普及対策、防災安全事業の実施及び企業債元金償還金に係るもので、資本的収入に対して不足する額 264,635,574円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分及び当年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

令和７年度函南町農業集落排水事業特別会計決算について

決算額

収益的収入及び支出

収入 12,639,437円　支出 12,222,536円　差引　416,901円

資本的収入及び支出

収入 1,865,000円　支出 3,341,506円　差引　△1,476,506円

決算の概要

令和７年度の損益計算書により、総収益は、前年度比 6.6％増の 12,528,232円、総費用は、前年度比 12.0％増の 12,111,331円で、当年度純利益 416,901円となりました。

収益では、農業集落排水使用料が 1,113,000円で総収益の 8.9％、一般会計繰入金である他会計負担金は 5,954,000円で 47.5％、その他の収益が 5,461,232円で 43.6％の構成となりました。

費用では、ポンプ場費が 4,064,627円で総費用の 33.6％、減価償却費が 7,327,673円で 60.5％、支払利息及び企業債取扱諸費が 151,690円で 1.2％、その他の費用が 567,341円で 4.7％の構成となりました。

資本的支出は企業債償還金に係るもので、資本的収入に対して不足する額 1,476,506円は、当年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

令和７年度函南町上水道事業特別会計決算について

決算額

収益的収入及び支出

収入 599,337,186円　支出 623,820,486円　差引 △24,483,300円

資本的収入及び支出

収入 237,300,000円　支出 410,184,149円　差引 △172,884,149円

決算の概要

令和７年度の損益計算書により、総収益は、前年度比 0.8％増の 536,990,030円、総費用は、前年度比 5.3％増の 596,600,415円で、当年度純損失 59,610,385円となりました。

収益では、給水収益が 459,870,053円で総収益の 85.6％を占め、水道加入金が13,863,658円で 2.6％、その他の収益が 63,256,319円で 11.8％の構成となりました。

費用では、原水浄水及び配水給水費が 214,134,199円で総費用の 35.9％、減価償却費及び資産減耗費が 222,187,888円で 37.2％、支払利息及び企業債取扱諸費が23,603,153円で 4.0％、その他の費用が 136,675,175円で 22.9％の構成となりました。

資本的支出は、老朽管布設替工事、各浄水場施設整備に係るもので、資本的収入に対して不足する額 172,884,149円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び当年度分損益勘定留保資金及び建設改良積立金で補てんしました。

令和７年度函南町畑、丹那簡易水道特別会計決算について

決算額

収益的収入及び支出

収入 6,525,529円　支出 4,795,682円　差引 1,729,847円

資本的収入及び支出

収入 0円　支出 580,381円　差引 △580,381円

決算の概要

令和７年度の損益計算書により、総収益は、前年度比 5.7％減の 6,000,739円、総費用は、前年度比 48.9％増の 4,275,188円で、当年度純利益 1,725,551円となりました。

収益では、給水収益が 5,251,480円で総収益の 87.5％を占め、その他の収益が749,259円で 12.5％の構成となりました。

費用では、原水浄水及び配水給水費が 2,835,500円で総費用の 66.3％、減価償却費が1,115,296円で 26.1％、その他の費用が 324,392円で 7.6％の構成となりました。

資本的支出は、企業債償還金に係るもので、資本的収入に対して不足する額 580,381円は、過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

令和７年度函南町田代、軽井沢、丹那地区簡易水道特別会計決算について

決算額

収益的収入及び支出

収入 22,349,980円　支出 23,345,252円　差引　△995,272円

資本的収入及び支出

収入 3,800,000円　支出 4,755,180円　差引　△955,180円

決算の概要

令和７年度の損益計算書により、総収益は、前年度比 4.9％増の 20,918,286円、総費用は、前年度比 14.1％増の 22,274,890円で、当年度純損失 1,356,604円となりました。

収益では、給水収益が 10,528,016円で総収益の 50.3％を占め、その他の収益が10,390,270円で 49.7％の構成となりました。

費用では、原水浄水及び配水給水費が 10,590,039円で総費用の 47.5％、減価償却費が 10,781,741円で 48.4％、その他の費用が 903,110円で 4.1％の構成となりました。

資本的支出は、老朽管布設替工事及び企業債償還金に係るもので、資本的収入に対して不足する額 955,180円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。

令和７年度函南町東部簡易水道特別会計決算について

決算額

収益的収入及び支出

収入 129,782,230円　支出 145,877,477円　差引　△16,095,247円

資本的収入及び支出

収入 31,300,000円　支出 37,930,897円　差引　△6,630,897円

決算の概要

令和７年度の損益計算書により、総収益は、前年度比 1.0％増の 115,645,778円、総費用は、前年度比 12.0％増の 135,094,693円で、当年度純損失 19,448,915円となりました。

収益では、給水収益が 99,892,781円で総収益の 86.4％を占め、その他の収益が15,752,997円で 13.6％の構成となりました。

費用では、原水浄水及び配水給水費が 99,952,592円で総費用の 74.0％、減価償却費が 22,556,906円で 16.7％、その他の費用が 12,585,195円で 9.3％の構成となりました。

資本的支出は、ポンプ場施設整備及び企業債償還金に係るもので、資本的収入に対して不足する額 6,630,897円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び過年度分損益勘定留保資金で補てんしました。